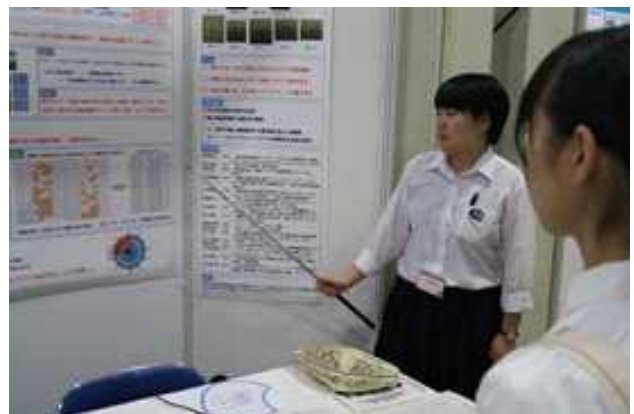
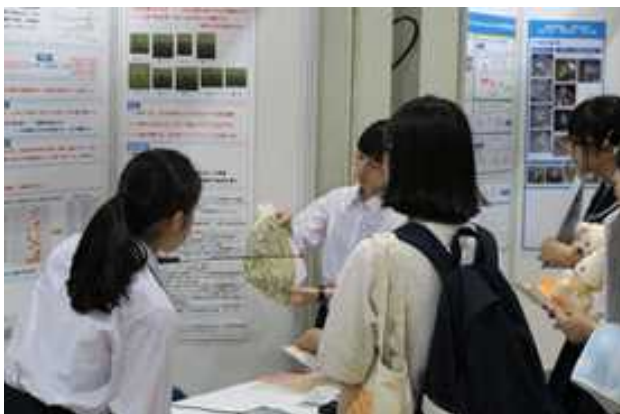


令和元年度SSH生徒研究発表会 神戸国際展示場 8月7日～8日

神戸国際展示場で行われたSSH生徒研究発表会に参加しました。この発表会はSSH校にとって最も大きい発表会です。規模も大きく、国内から218校の代表班の発表があり、海外からは23校の発表がありました。また発表時間も非常に長く、2日間で6時間30分におよぶポスターセッションでした。聴衆のために準備した200部の資料のほとんどを配布しましたから、1回のセッションで3～4人と計算してもおよそ60回の発表をしたことになります。発表会では、まず京都薬科大学名誉教授の桜井弘先生の「周期表誕生150年 メンデレーエフの努力と天才」と題した基調講演から始まりました。各ブースのポスターセッションでは、益田高校からは、生物班の「**チョウセンハマグリ(*Meretrix lamarckii*)の砂中行動の解明**」というテーマで発表しました。校外で発表するのは、4回目ということもあり、これまで以上によくかみ砕いて発表していたように思いました。しかし、全国の他の様々な学校の高度な発表を目の当たりにして、学ぶ事も多かったように思います。

以下、参加した3年生の感想を載せます。1、2年生も是非、自分たちの研究の完成度を高めるための参考にしてください。





久保田 光結さん

今回、全国大会に初めて参加しました。基調講演では、メンデレーフについて、教科書の元になった研究についてのお話を聞くことができました。私たちのポスター発表では、砂の抵抗値を揃えているかということや統計学的に正しいのかを計算してみたいということなど、大学の先生方も多数おられたようで、今まで意識なかった部分を指摘されました。参加している他校の発表では、模型を使っていたり箱ひげ図や相関図使い、聴衆への分かりやすい考察を行っていました。また、発表者の中には英語論文を読み込み自分の研究の参考文献として自分も英語論文を発表している人もいました。さらに、9000を超えるデータを丁寧に解析し、研究のまとめにつなげている人もいました。口頭発表に選出された学校では、スライド作成にも私たちとは比較にならないくらいの時間をかけて見せる工夫をしているグループばかりで圧倒されました。今回の経験を生かして進学先では幅広く論文を読み関連する知識を深めた上で研究したいと思いました。

斉藤 史巳さん

今回、SSH生徒研究発表会に参加して、最も深く感じたのは、全国の高校生のポスター発表や口頭発表の工夫です。自分たちが今まで研究してきた内容で何が伝いたいのか、どうすれば相手に伝わるのかを十分に検討され、発表していました。特に優秀校に選ばれた6校の口頭発表では、発表後に受けた質問に対して、十分な準備をしている様子や質問の返答以上に補足も加えながら回答されていました。この感想を先生と話した際、様々な校外での発表会で、見たり発表したりという経験を積んでいるので、その都度工夫改善しているから上手になっているのだと教わりました。私たちも発表のまえから質問に対する答えを準備してきたつもりだったのですが、他県の高校生や審査員の方々からは、今まで自分たちが考えていなかった視点からの質問に戸惑い、十分な返答をすることができませんでした。審査員や大学の先生らしき方からアドバイスや指摘をいただき多くのことを学ぶことができました。この大きな発表会を通じて自分の取り組んで来たことに対する発表では、目的に向けて丁寧な準備をすることや経験を重ねることの大切さを学びました。また、人前で的確に自分の考えを表現する方法について、これからの生活に生かしていこうと考えています。

遠藤 咲季さん

今回、SSH生徒研究発表会に参加して最も強く感じたことは、全国の研究のレベルの高さです。特に各分野から選ばれた6校が行った口頭発表では、専門的な内容ながらも分かりやすくなるように図や動画を用いて発表されていました。発表一つにも十分に練られて時間をかけたスライド作成がなされていて、その分野に全く詳しくない私にとっても理解しやすく面白い発表だと感じることができました。また、研究中の課題に対して、解決策の検討を重ねた跡が見られ、工夫されているなあと感心しました。質疑応答では、どの質問にも落ち着いて堂々と返答している姿を見て、全国のレベルの高さを感じました。私たちのポスター発表では、たくさんの高校生や専門家の方に発表を聞いていただくことができました。私たちが気付かなかった視点からのアドバイスや鋭い指摘をさせていただいて研究の方法や条件設定、考察に向けての勉強になりました。また、自分の伝えたいことをしっかりと伝えることの難しさも改めて感じました。この2日間、高いレベルに触れて学ぶことができ、とてもよい経験になりました。

田原 茉季さん

SSH生徒研究発表会は、普段の校内や地域の発表会ではできない学びがたくさんできた2日間でした。自分たちの発表では、これまでの発表会を通して様々な準備をして臨んだつもりだったんですが、予想を上回る鋭い質問や不十分な部分の指摘をしてもらうことで、まだまだ足りなかった部分や新たな視点が見つかりました。他校の発表を見て自分たちの研究を分かりやすく伝えるためには、発表の仕方に工夫することと自分たちの研究成果を聞いてほしいという熱意が必要なのだと

感じました。2日目には、優秀校に選ばれた6校の口頭発表がありました。どの研究も今まで見てきた研究とは桁違いで、高校生とは思えないほどの研究でした。身近なものから気付いた疑問を研究したテーマであっても丁寧で綿密で精度の高い実験が繰り返されてデーターをとっていました。また、高校の学習領域を超えた専門的な研究もありました。その研究では大学の先生に自ら支援を求め研究を進めていました。どれも研究成果に説得力があり、聞いている私を引きつける面白い発表でした。

この2日間で他校の生徒と交流することもできました。全国のレベルの高さを感じ、この刺激的な感触をこれからの学校生活にどのように生かしていこうかと考えると楽しみになります。

斎藤 陽菜さん

今回参加した「SSH生徒研究発表会」を通して、私は二つの大きな刺激を受けました。

一つ目は、全国の高校生の研究に対する熱意です。自分が進めてきた研究は他の誰もやっていないということや、新技術の開発に繋がるに違いないということを大学教授や審査員の方々に熱弁する姿は、私と同級生なのだとは思えず、とても新鮮でした。普段の校内発表だけでは、自分の研究に興味をもって聞いてもらいたいという意識が希薄になってしまいがちなので、これを機に「研究発表」の有り方を捉え直すことができました。

二つ目は、どんなに高度で専門的な研究であっても、動機は身近なものであるということです。この研究発表会には5つの分野からの研究が集まり、化学現象や物理現象などの説明があり中には理解できなかった部分もありました。しかし、どの研究にも共通しているのは、私たちの身の回りにある疑問や、こんなことができれば面白いといった小さな好奇心から始まっているということです。そのようなきっかけをどのような方法で検証・考察し、社会の中で「役立つもの」へと発展させていくかは、それぞれの発表者の個性や経験が活きていると感じました。小さな「気付き」の可能性を学ぶことができました。

この二日間の発表では、ここには書き切れない程多くの学びや刺激的な経験を得ることができました。後輩にも、是非この発表の場に行って、「課題研究とは何なのか」を学んでもらいたいです。